

上宮津公民館だより

第 63 号
平成 27 年
5 月 18 日

温故知新

公民館長 智原芳明

辞書には、「古きを尋ねて新しきを知る」「すでに学んだことをよく研究してこそ新しい道理が分かること」と語訳がついています。

上宮津地区にとって昨年度は小学校の閉校という大きな転機を迎え、自治連合会を中心に地域の組織をあげて取り組みをした一年だったといえます。

なかでも上宮津小学校の閉校記念誌の編集は、膨大な資料の整理に多くの時間を費やしました。

文集「ちがふち」や「すぎやま」をはじめ、歴代の校長先生や卒業生の方々から、当時をしのんで懐かしい文章が寄せられています。

古い校舎には、石垣の上に大きな桜の木があり、その下でゴザを敷き運動会や仮装大会の観戦をしたこと。

天神、鳥が尾団地が出来てから児童数が増加し、体育大会で上小は優秀な成績を収めたことや、学校には気の合う近所の子同士で誘い合っ行って、帰り道は近道といつて、実際は山道や遠回りをして道草しながら下校したこと。

講堂の横には大きなイチヨウの木があつて、秋に銀杏を拾い集めたことなどが書かれています。

卒業写真は、学校に残された開校当初からの写真をもとに編集がしてあります。黄色く変色して識別しにくい写真もコンピューター技術で美しく修正されています。

明治から今日までの時代の移り変わりを象徴する服や着物姿で写っているのにとっても印象的です。年度別の卒業生の顔を見るのにふさわしい貴重な仕上がりとな

っています。

そのほかにも当時を忍ぶ写真や動画を交えて作られたCDや、旧校舎のジオラマは当時の学校の様子が細やかに再現されています。

上小を卒業し五十年以上を過ぎた私ですが、記念誌の作業に携わっているだけでなぜか小学生のころにタイムスリップして懐かしくなるほどでした。

開校以来小学校は、地域の教育文化の向上と人材の育成に寄与することで地域の発展に大きく貢献し、その精神は今日まで引き継がれています。

「故郷に錦を飾る」「一旗掲げる」「ふるさは遠くにありて思うもの」などの言葉に象徴されるように戦後の右肩上がりの経済の中で、時に無限の可能性を感じさせる時代もありました。

在校生も昭和六〇年頃は二〇〇人を越えていたこともありました。

しかしながら、人口減少と

少子高齢化の時代に入り、四一年の伝統と二九六四人の卒業生を輩出した上宮津小学校は閉校に至りました。

児童の声が聞かれなくなった校内の池には鯉が残されたままになっていました。

新たな飼い主を探していたところ、盛林寺様が引き取ってくださいることになりました。

明治六年に盛林寺の本堂で開設され小学校発祥の地に閉校を見届けたかのように引き取られたのは、単なる偶然とは思えません。

「村に不学の戸なく、家に不学の人なからしめんことを期す」という句で広まった小学校設立気運の意義を今後も忘れてはなりません。

上宮津における向学の志は「学びの郷」として、直面する様々な課題に対応し、前進をしていかなければなりません。

今一度、閉校を機に考えることは有意義なことではないでしょうか。

元氣なふるさとを守ろう

自治連会長 細見 節夫

今年の役員改選で引き続き二年間会長を引き受けることとなった。平成二十一年に就任して七年目、宮津市自治連協会長も六年目に入る。

小学校の統合もあり、上宮津地区も環境が大きく変わる中で地域の課題は多様化し、自治会はもとより夢会議をはじめ地域会議に集うすべての組織がやらなければならぬことが山ほどある。

今年の二月、上小の五・六年生の授業で上宮津の過去・現在・未来について話す機会があった。そこで私は昔の農村社会で共働・共助が当たり前のどこのうちでも牛を飼う兄弟も多かった三世代同居の大家族の生活を強調した。そして現在の人口減少と超高齢化で学校が閉校となる現在の社会現象を話した。生徒からは自治会長としてこれから上宮津地区をどんな姿にしたいのか問われた。

私は、将来は何事も循環する上宮津地区にしたいと答えた。いつ

の時代もどこの国も地域も人類社会は、赤ちゃんが生まれ年を老いてなくなる人口再生産の循環の中で動いている。しかし現在の日本の姿は、出生率がどんどん低下して人口が減り続け地方の集落が消滅していく異常な状態である。循環とはめぐる環のことである。朝が来て夜が明け又朝が来るこれが循環である。

わが国のこれまでの近代化の百年は環境問題をはじめコミュニティを含め人間社会ならびに人と自然との循環の連鎖を断ち切ってしまったといえる。とりわけも地方の農村社会を人の住めない環境にしてしまった。

人間の体にたとえれば動脈系は東京一極集中で頭脳も心臓も元気があるが、心臓から流れる血液も勢いがなく手足である地方は衰退し静脈系は麻痺状態にある。わが国は病体で血液の循環が異常な状態にあるといえる。

小学校の閉校も社会の健全な循環の観点からは連鎖が切れた断面のひとつである。

ようやく政府も地方創生に動き

出したが、遅きに失したといえる。

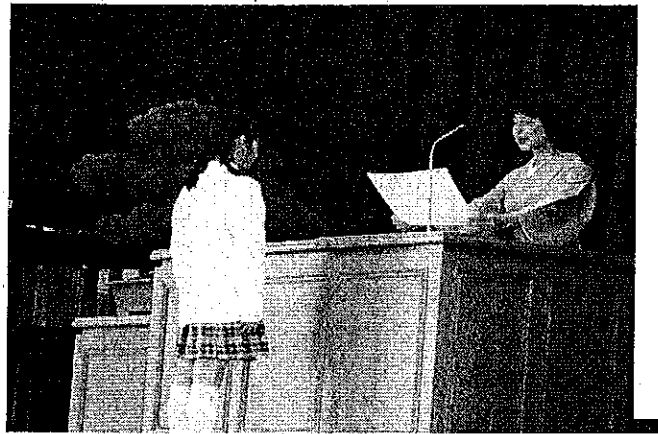
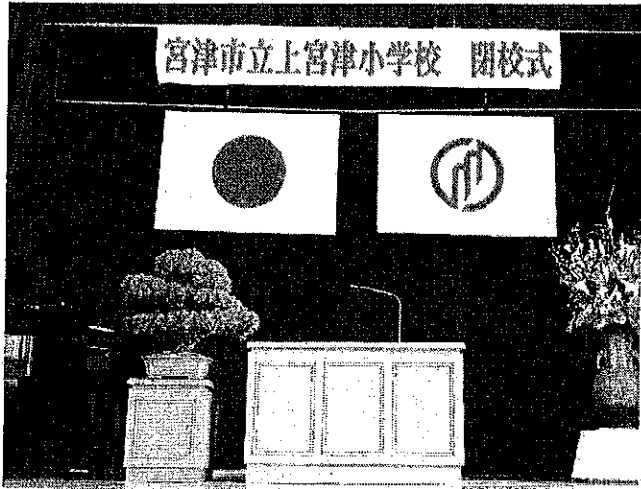
時代の危機感から、私達の地域おこしの機運が高まってきたのは平成十四年の振興計画策定の頃からであるが、地域の衰退はもつと以前から始まっており、気のついた時点では『時既に遅し』が常である。それだけに地域おこしは、二十年三十年先を見越して取り組む必要がある、次の世代のために今何をすべきかが問われている。

地域会議で策定した二〇二二年ビジョンもこの観点から課題を提起した。

上小の跡地利用は、これからの上宮津の地域おこしの象徴となる取り組みと考えている。プールはホンモノコの養殖試験で再利用する。

校舎の利用も地域活性化の観点から積極的な活用を進める。上宮津地区には閉校記念事業で発揮した潜在的な地域力が有る。

再出発の気持ちでみんなで力を合わせて夢に向かってがんばろう。



輝け！ 上宮津の宝

元上宮津小学校 校長 吉岡俊子

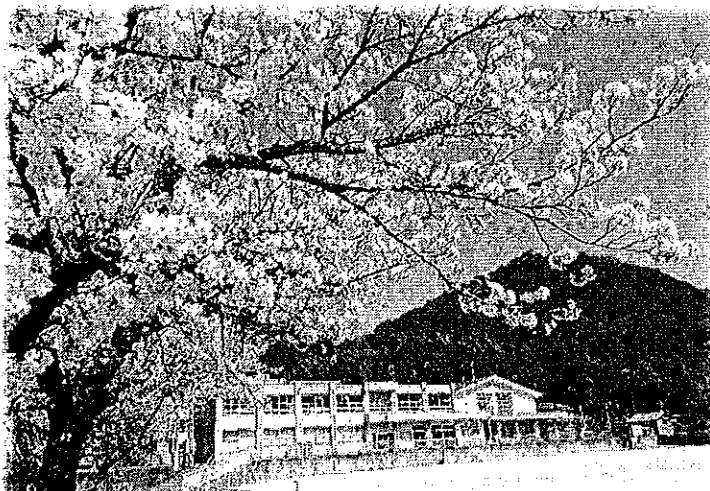
公民館関係の皆様を始め、地域の皆様には、これまで上宮津小学校の教育活動充実にむけ、多くのご支援・ご協力をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

全校児童が二十三名、複式が2学級という厳しい教育環境ではありましたが、子どもたちと共に充実した三年間を過ごすことができましたのも、ひとえに地域の皆様のご支援・ご協力のお陰と感謝しています。

上宮津に赴任し最初の公民館だよりに「ふるさと上宮津が大好きな子どもたちであるよう、皆様と共に大切に育てて行きます。」と書いたのがつい昨日のように思うのですが、地域の皆様からの深い愛情に包まれ、育まれた子どもたちは、上宮津が大好きな子どもたちに育てられたと、自信を持って言うことができます。

先日の閉校式の児童発表でご覧いただいた通り、みんな、本当に上宮津のことを心から大切に思っています。きっとこの子どもたちは、上宮津がこれからも豊かで美しく、誰をも包み込む優しい街であり続けるために貢献してくれると信じています。

学校はなくなりましたが、上宮津の宝である子どもたちが、これからも健やかに成長し、生き生きと輝き生活できますよう、これまでも同様、温かく見守り育てていただくことをお願いして、私のお礼のあいさつとします。わたしは、上宮津小学校に勤務でき、本当にしあわせでした。皆様、ありがとうございました。



(4)

| 氏名 | 所属団体 |
|-------|----------------------|
| 彦坂 好幸 | 小田自治会会長 |
| 細見 節夫 | 上宮津自治連合会会長 (喜多自治会会長) |
| 奥野 利貞 | 今福自治会会長 |
| 椿原 篤夫 | 天神自治会会長 |
| 藤田 誠 | 烏が尾自治会会長 |
| 大西 高広 | 松縄手自治会会長 |
| 関野 掲司 | 上宮津財産区管理会会長 |
| 岡 伸侍 | 合同会社大江山スキー観光代表 |
| 杉田喜美代 | 市社協上宮津支会長 |
| 橋本 陽子 | 上宮津保育所所長 |
| 酒井 勝明 | 民生児童委員常務 |
| 藤田 淳志 | 上宮津体育協会会長 |
| 松岡 照幸 | 宮津市スポーツ推進委員 |
| 粉川正太郎 | 上宮津 21 夢会議代表 |
| 柴田 圭吾 | 上宮津保育所保護者会会長 |
| 平野 治 | 千歳会会長 |
| 福井 憲則 | 今福福寿会会長 |
| 関野 掲司 | 喜多城倶楽部 |
| 粉川 紀子 | 上宮津自治連合会事務局 |
| 智原 芳明 | 上宮津地区公民館館長 |
| 大西真由美 | 上宮津地区公民館主事 |

今年度の公民館運営審議会委員として次の方々にお世話になります。
皆様のご協力をよろしく願います。

平成二十七年

上宮津地区公民館運営審議会委員の紹介

敬称を略させていただきます

本年度の公民館事業

◇地区全体

- 上宮津駅伝 6月14日
- 盆踊り大会 8月14日
- 敬老会 9月20日
- 運動会 10月/11日(予備日18日)
- 文化祭 11月14.15日
- 健康広場 4~5回/年間

◇青少年体験活動

- 子どもいきいき体験活動 随時
- 新春お楽しみ会 1月9日

◇講演会・講習会

- 人権研修会 6月
- 老人会健康づくり講演会 7月
- 一般教養講演会 10月
- 注連縄作り講習会 12月5日
- 囲碁大会 2月11日
- 男の料理教室 3月6日

◇同好会・サークル活動

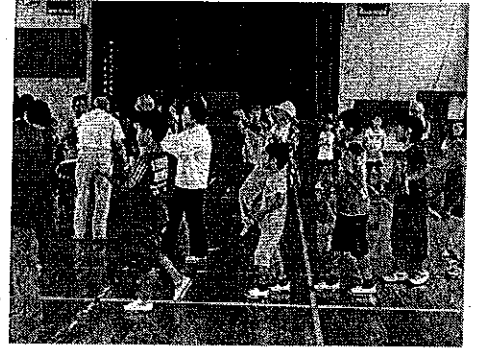
- 体操教室 毎月第2金曜日
- バドミントン 毎週火・土曜日
- 囲碁の会 毎月第2土曜日
- コーラス 毎月第3水曜日
- 陶芸教室 毎月第4土曜日

平成26年度
後期事業報告Ⅰ



8/3 【大掃除】

多くの皆様に普段できない所まできれいにさせていただきました。



8/14 【盆踊り】

小学校のグラウンドを会場とし、盛大に行いました。



9/21 【敬老会】

上宮津小学校の児童が参加する最後の敬老会となりました。

10/12 【運動会】

上宮津小学校との最後の合同運動会。校門を緑門に、橋立レンジャーも登場！総合優勝は喜多自治会でした。



11/8~9 【農業文化祭】

閉校に伴う懐かしい写真やジオラマの展示で例年より多くの来場者数でした。

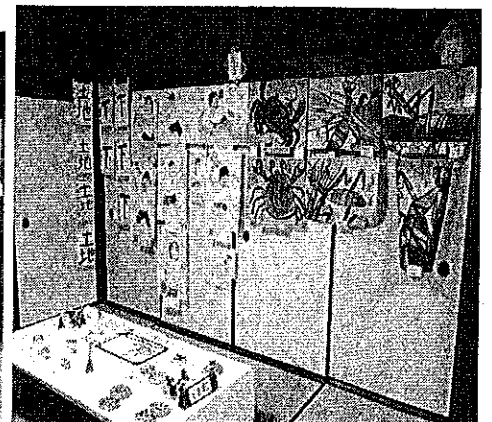
12/6 【しめ縄教室】

年々藁やカズラといった材料の入手が困難になってきていますが、伝統の技術を継承する貴重な取り組みです。



2/11 【新春囲碁大会】

毎年、この大会を楽しみにした方の参加で和やかに行われています。



平成26年度
後期事業報告2



1/10 【新春お楽しみ会】

恒例の餅つき、コマ回しやカルタなど昔の遊びを親子で楽しみました。

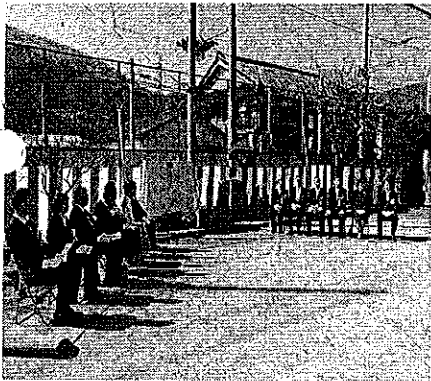
3/1 【男の料理教室】

上世屋のこんにやく芋を材料に1からこんにやく作りに挑戦しました！



3/8 【健康づくり講座と今福の滝ウォーキング】

午前中は無理なく楽しくできる体操を教えていただき、午後からは従来のコースではない初めての試みとして今福の滝まで行きました。



3/28 【上宮津小学校閉校式】

141年の歴史に幕を下ろした上宮津小学校。予想を遥かに上回る来場者で、記念碑の除幕式に始まり、小学生の最後の発表、宮津高校吹奏楽部による演奏、懐かしい上宮津の歴史映画の上映と、涙あり、笑顔ありの式典でした。旧校舎のジオラマは素人とは思えない立派なものに仕上がりました。



ご協力下さった全ての関係者の方々に感謝いたします。

